

県北

三次支局 ☎0824(63)5155 FAX(65)0088
 庄原支局 ☎0824(72)0149 FAX(75)0029
 安芸高田支局 ☎0826(42)0063 FAX(47)0020
 東城ステーション ☎0847(2)0560

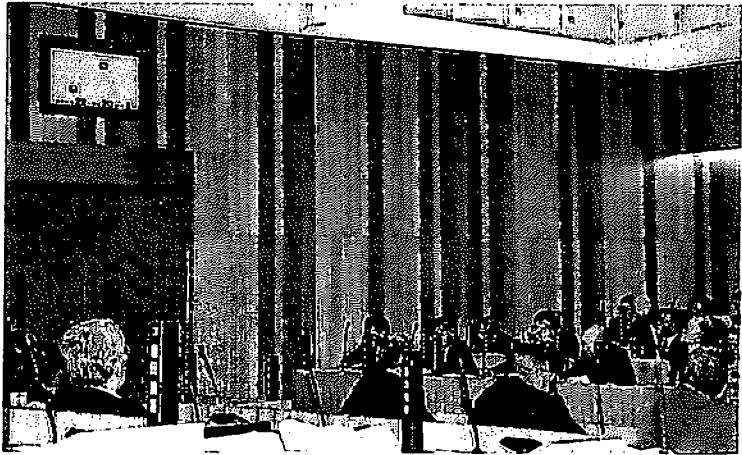
混迷事業根強い抵抗感

理解求める姿勢も不足

庄原バイオマス継承市議会認めず

庄原市議会は21日の臨時会で、木質バイオマス利活用プラント整備事業を第三セクター設立によって継承するという市方針を認めなかった。刑事事件に発展するなど混迷する事業に市が関わって立て直すことへの議会や市民の抵抗感は根強く、市はそれを拭い去るだけの説明ができなかった。20面聞連。(菊本志)

市議会は、三セク設立の事業費部分などを削除した2012年度一般会計補正予算案を修正、可決した。議員発議の修正案の採決は賛成20、反対2。反対の2議員も「市費投入は(市側が)責任を取らなければならない」として、責任を取らなければならないことを強調。「否決となればどうした構想が達成できず、相当額の補助金返還が生じる。再びヤレんシを認めてほしい。これ以上なすすべはない」と述べた。



第三セクター設立費などの事業費を削った修正案を賛成多数で可決した庄原市議会臨時会

セク方針についてはとっていない」「理念は分かるが、継承の前にいったんこの事業は失敗したとして、清算すべきだ」と指摘した。市がプラント事業を三セクで継承する方針を示したのは11日の市議会全員協議会だった。10日後の臨時会で採決という性急な日程。三セクの将来的な収支見込みや、三セク参加企業の説明も不十分だった。継承ありきで話が進み、理解を求める姿勢が不足していたのは否めない。

4月で退任する滝口市長は任期最後となる定例会(2月12日開会)に再び三セク関連の案を提案する考えを示した。三セクに参加する企業の代表者に来てもいい、市民や議会の理解を求めていく考えだ。しかし、議会の反対姿勢を約1カ月間で覆せるかどうかは厳しい状況だ。

は、どうした構想が達成できず、相当額の補助

「市民からの意見は三

庄原バイオマス事業

三セクで継承認めず

市議会 補正予算案を修正

庄原市議会は21日、臨時会を開き、市提案の2012年度一般会計補正予算案から木質バイオマス利活用プラント整備事業を第三セクターで継承するための費用などを除いた修正案を可決した。市提案の補正予算案を大幅に修正。事業継承のための三セク設立は認めなかった。(森下敬)

市は、バイオプラス (大阪府東大阪市) とチック製造のクリーンプレシール (大阪) 万円を出資し、三セクを設立する計画を示していた。

市は、バイオプラス (大阪府東大阪市) とチック製造のクリーンプレシール (大阪) 万円を出資し、三セクを設立する計画を示していた。止前の一部事業変更に伴う国への返還補助金約2100万円▽破綻状態にある事業主体のグリーンケミカル (庄原市) の破産申立費用約1千万円―などから成る。

を「など」とし、約2100万円の補助金返還だけを認めた。プラント整備事業には、その分とは別に、市を通じ国の補助金計約4億5千万円が出ている。事業継承断念となれば、グリーンケミカルには補助金返還の能力がないことから、市が返済を迫られる可能性がある。

4月に退任する滝口季彦市長は臨時会閉会后、「任期中に道筋を付きたい。在任中の事業継承断念はない」と明言。「計画を精査し、次の定例会に再提案したい」との考えを示した。

クリーク
庄原市の木質バイオマス事業休止問題が、環境機器製造シュオン (広島市安佐南区) 自己破産手続き中、同社関連会社グリーンケミカル (庄原市) と進めていた3事業が頓挫している問題。市を通じて国の補助金が出ている。シュオンは木質チップボイラー事業 (国補助金1900万円) とバイオエタノール実証実験施設整備事業 (同1400万円) を、グリーンケミカルは木質バイオマス利活用プラント整備事業 (同4億5千万円) を展開。シュオンの破綻で2010年11月からいずれも休止。12年3月、3億円以上の補助金不正受給があるとしてプラント整備事業が刑事事件に発展した。

県 北

三次支局 08224(63)5155
 庄原支局 08224(72)0149
 安芸高田支局 08226(42)0063
 東城ステーション 08477(2)0560

三セク 確実な継承が狙い

再提案へ資料・説明会

庄原バイオマス問題 滝口市長に聞く

庄原市が推進していた環境ベンチャー企業の木質バイオマス利活用プラント整備事業が頓挫している問題で、市が示した第三セクターによる継承案は21日の市議会臨時会で認められなかった。事業には市を通じ約4億5千万円の国補助金が出ている。約2年2カ月に及ぶ休止問題の先行きは見えない。市が継承方針を打ち出した理由や、今後について滝口孝彦市長に聞いた。

(森下敬、菊本孟)

「事業継承の狙いは何ですか。」
 「一番は事業そのものの目的を果たすこと。事業は間伐材を活用することで荒れている山林整備につながる。雇用も生じ、環境に優しい社会構築も進む。この事業は間違っていない。たまたま相手(事業主体のクリーンケミ



「三セクによる継承で事業の理念を達成したい」と話す滝口市長

「事業継承に向けて協議を続けてきた(市と三セク設立方針の)企業の思いに心えないと、市としての信頼もなくなる。」
 「三セクにする必要性は。市が直接関わることでより確実に事業継承できるからだ。国と協

「三セクでは何をすすめるのですか。」
 「間伐材を木粉にしてプラスチックの増量剤として販売したり、新たな商品開発などをすすめる。増量剤は、例えば車やパソコンの部品、ごみ袋などに使える。化石燃料の使用も抑えられ、環境に優しい。」

「三セクに対して市議会は全員が反対姿勢でした。今後は。」
 「次定例会(2月12日開会)に再び提案する。説明資料の充実や市民や市議への説明会などで理解を得たい。私は4月で退任するため次の市長に任せるべきだとの意見もある。しかし、この問題は現体制でしっかり道筋をつける責任がある。その先は新執行部で判断すればいい。私の任期中は継承に向けて動く。事業中止という判断はしない。」

「三セクに対して市議会は全員が反対姿勢でした。今後は。」
 「次定例会(2月12日開会)に再び提案する。説明資料の充実や市民や市議への説明会などで理解を得たい。私は4月で退任するため次の市長に任せるべきだとの意見もある。しかし、この問題は現体制でしっかり道筋をつける責任がある。その先は新執行部で判断すればいい。私の任期中は継承に向けて動く。事業中止という判断はしない。」